情報提供日	令和４年（2022年）８月１７日（水）
問い合わせ先	広島市植物公園 管理課　　　　小林、富澤 栽培・展示課　山本、信太 TEL 082-922-3600

江戸時代の園芸文化を今に伝える
変化朝顔展

１　目的

江戸時代の園芸文化を今に伝える「変化朝顔」を栽培し、貴重な遺伝資源を保全するとともに、展示に活用することで、市民への普及啓発を図ります。

２　日時

８月２０日（土）～８月２８日（日）まで（金曜休園）

３　協力

広島あさがお研究会

４　場所

広島市植物公園　展示温室

５　内容

当園では、昭和 57 年から「変化朝顔」の栽培・展示を継続しており、公的機関としては日本で一番長い栽培・展示の歴史があります。今年は約２００点の「変化朝顔」を展示します。

（１）広島市民の有志で構成された「広島あさがお研究会」の会員が交配育種して育てた変化朝顔や朝顔にまつわる作品等を出品します。

（２）期間中の毎日１０時～15 時まで、「広島あさがお研究会」の会員による変化朝顔の種子の販売を行います。

変化朝顔とは?

変化朝顔は、珍しいもの好きだった江戸時代の人たちが発展させた園芸植物です。

糸のような葉、多肉植物のような姿、撫子のような花、八重咲の花、一見アサガオに見えない珍しいものがあり、これらはみな突然変異による変異株です。変異株は種子が採れないことが多く、系統維持をするには遺伝学的な知識がないと難しいのですが、驚くことに現在の様に遺伝学が発達していなかった江戸時代の人々は、長年の経験によって様々な変化朝顔を栽培し続けていました。

牡丹咲き
雄蕊や雌蕊が花弁化した変異

糸柳葉
葉が糸のように細くなる変異

勾玉爪龍葉
葉が龍の爪のようになる変異

＊ アサガオは朝咲く植物につき、午前中の観賞をおすすめします。また、写真のアサガオは昨年展示したものです。今年も同じ花が見られるとは限りません。